

# 平成28年6月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

## ◎ 個人質問

2番 河合謙治

### 1. 認知症対策の推進について

井原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第6期）の中で、認知症対策の推進として、

「認知症高齢者対策は、今後の高齢者保健福祉における重要課題の一つであり、認知症高齢者が尊厳を保ちながら穏やかに暮らすことができ、家族も安心して社会生活を営むことができる体制づくりが必要です。

近年、医療技術の進歩により、認知症の早期発見・早期治療の方法が確立され、進行を遅らせ症状を緩和することができるようになりました。しかし、高齢化の進展を背景に、軽度認知症（MCI）を含む認知症患者など介護が必要な高齢者の増加が予想されています。

認知症高齢者は環境の変化に適応することがより困難なことから、生活の継続性が尊重されるよう、日常生活圏域を基本としたサービス体系を整備していく必要があります。このため、認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護等の地域密着型サービスの適正なサービス量の確保に努めます。また、地域の関係者の連携を強化し、早期発見・早期対応に重点を置いて、認知症高齢者や家族に対する支援の充実や、権利擁護等の取組に関する広報の充実を図るとともに、近隣者・ボランティアによるインフォーマルサービスの充実など介護保険対象外のサービスも含めた総合的なサービス提供体制の見直しと充実を促進します。」と記されています。そこで、

①厚生労働省によると、わが国の認知症高齢者は、2012年（平成24年）で462万人と推計されており、2025年（平成37年）には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。市内において、介護が必要な認知症高齢者の推移についてお伺いします。

②井原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第6期）に基づく認知症対

応型共同生活介護、認知症対応型通所介護等の地域密着型サービスの現在までの進捗状況と今後の基盤整備計画についてお伺いします。

## 2. 井原市民病院に喫煙場所を設置しては

厚生労働省のアンケート調査によると、2014年現在、8,493病院のうち、敷地内を全面禁煙としているのは、4,351病院(51%)、建物の中だけを全面禁煙としているのは、2,758病院(32%)、喫煙場所を設置し煙が流れ出ないような措置を取っているのは、1,182病院(14%)、その他の措置をしているのは、119病院(1%)、何もしていないのは、14病院等となっています。

また、2003年施行の健康増進法は、公共施設などの管理者に受動喫煙防止対策を求めています。罰則はありません。喫煙されない人にとっては、何ら問題ない事ですが、喫煙される人にとっては、非常に苦痛なことで、特に、見舞い・外来の人が待ち時間の際には、とても喫煙したくなるようです。

よって、できれば1箇所だけでも喫煙場所を設けて頂きたいと考えるのですが、検討して頂けないかお伺いします。

5番 惣 台 己 吉

## 1. 防災・減災対策について

本年4月14日に熊本地方を中心に大規模地震が発生し、余震も続いており、2カ月が経過した現在でも多くの方が不安定な避難生活を余儀なくされている。そこで、本市における「防災・減災対策」の取り組みについて伺う。

## 2. 市公用車の更新計画について

本年度の当初予算に公用車4台を更新する予算を計上されているが、市公用車を更新する際の基準はあるのか伺う。

## 3. 移住・定住施策への取り組みについて

①現在取り組んでいる主な移住・定住施策について伺う。

②結婚推進事業について伺う。

③平成28年度から取り組む新たな施策について伺う。

④移住者数を増やすための積極的なPR方法について伺う。

6番 三宅文雄

## 1. 地域創生と教育について

「元氣いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の施策の推進に当たっては、中高生から社会人までの若い人たちの考え方がより反映されたものでなければならぬと考える。将来の井原市を担うことになる青少年と地域創生との関わり方の現状及び課題について、次の2点を伺う。

①地域創生につながる人づくりと教育について

②中高生を含む青少年と地域創生の関わり方について

## 2. 都市計画マスタープランの策定について

平成28、29年度の2年間をかけて、都市の将来像についての基本的な方針となる「井原市都市計画マスタープラン策定業務」が予算化された。本市の将来を見据えた重要な施策であると考えているが、策定にあたり次の2点について見解を伺う。

①策定の目的について

②策定の内容について

1. 自殺対策について

- ①過去5年間の井原市内での自殺件数を伺う。
- ②井原市では自殺対策計画はあるのか伺う。
- ③学校などでの相談体制、教員への研修等をされているか伺う。
- ④学校が保護者や地域住民と連携し、児童や生徒らへの教育や啓発に取り組んでいるのか伺う。
- ⑤医師や福祉の専門家、民間団体の関係者による連携確保はされているか伺う。
- ⑥今後の井原市での自殺対策の考えを伺う。

1. 地方財源の確保及び本市の財政状況と今後の見通しについて

芳井町、美星町との2町の編入合併から10年が経過し、国の特例措置である上乗せ財源としての地方交付税が、昨年度から5年間にわたり、トータルで約12億円程度削減されることとなっている。

それに加えて、消費税率の8%から10%への引き上げ再延長が先の国会において示されている。

そこで、本市の財政面に大きな影響を及ぼすと思われる次の5点について伺う。

- ①最近における本市の人口動態、また、直近1年間における本市の転入・転出される方の主な理由について
- ②今日の本市の財政状況のうち、国・県・市債（借金）等以外の自主財源の総額と一般会計に占める割合及び今後の見通しについて

③消費税率引き上げ再延長に関する本市への影響額について

④三菱自動車関連企業への影響とその対策について

⑤本年2月に策定した「元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略」への影響について

## 2. 本市の公共施設（インフラ）の維持・補修等と防災対策全般について

1) 本年3月「井原市公共施設白書」が策定されたことを今月6日のホームページで情報を得た。公共施設（インフラ）の整備は今後とも必要なものは整備しなければならないが、ソフト事業への転換及び整備した公共施設の維持・補修等がますます重要となってくる。

そこで、次の2点について伺う。

①今後の社会保障に関する経費や施設等の維持費がますます増大すると見込まれ、今まで以上に身を切るような施策の「選択と集中」、「行財政改革」が求められる中、この度の「井原市公共施設白書」が策定されたこと自体は、まことに時を得たものであると思料するが、この白書についての全体的な考え方、維持の手法及び補修等に要する経費試算並びに市民サービス低下とならない本市としての行政経営の考え方について

②ソフト事業における窓口サービス、ノウハウの継承、行政サービス提供に関する職員の市民に対する丁寧さ、また各種手続きにおける窓口の一本化に対する考え方について

2) 防災対策全般について、次の2点を伺う。

①防災・減災対策として、今後発生が想定される「南海トラフ地震」に対し、災害時に支援を必要とされる方々への対応は現在着手されていると思われるが、その現状と課題について

②「井原市第2次耐震改修促進計画」における本市で想定される地震の規模及

び被害の状況、地震に伴うがけ崩れ等による住宅被害の軽減策及び避難計画、耐震改修への施策とりわけ一般住宅の耐震化への誘導策について

4番 柳井一徳

## 1. 農産物のブランド化について

①農産物ブランド化チャレンジ事業補助金は、既存の農産物全般を対象に井原ブランドとして栽培し、6次産業として加工販売にチャレンジする方に対する補助金ですか。それとも農産物全般ではなく、特定の農産物に限られるのですか。または、新たに栽培に取り組む農産物に対してのみですかお伺いします。

②高品質な農産物として井原市が認可し、消費者に対し推奨するため、統一した井原ブランドのマークを作成する考えがあるのかお伺いします。

③6次産業化も含め、農産物ブランド化チャレンジ事業をどのようにまちづくりに活かすのかお伺いします。

## 2. ワイン（リキュール）特区について

①「ブドウの里 井原ワイン特区」と「備後ワイン・リキュール特区」の認定を受けたとの新聞報道がありましたが、詳しい経緯についてお伺いします。

②それぞれの特区には、どのような違いがあるのか、特区の内容についてお伺いします。

③特区の認定を受けることにより、どのような効果が見込まれるのかお伺いします。

④市内に、特区認定された特定事業を利用しようとする個人、事業者がいるのかお伺いします。

⑤市ではワイン（リキュール）特区を活用して、今後どのような施策、支援を進めていくつもりかお伺いします。

16番 佐藤 豊

#### 1. 三菱自動車の燃費偽装問題による市内関連企業への影響と支援策について

三菱自動車の燃費偽装問題による軽自動車の生産停止は、多くの関連企業へ影響を及ぼし、倉敷市や総社市はもとより、県内多くの関連中小企業に波及しています。その結果、企業の倒産や従業員の解雇などにより地域経済に多大なダメージが出るのが危惧されており、その対策や支援策等が急がれます。倉敷市では、資金繰りを支援する新たな低利融資制度の創設など、総社市では、従業員の解雇を防ぐための国の雇用調整助成金に市独自の助成金を上乗せする対策や、三菱系企業に企業版ふるさと納税をお願いする呼びかけなども開始するとしています。本市でも、5月12日の井原機械工業協働組合からの支援要望を受け、支援体制や支援事業を打ち出されていますが、その具体的な取り組みについて伺います。また、現状での市内関連企業への影響と支援策活用状況について伺います。

#### 2. 観光行政について

平成17年に670万人だったインバウンド（訪日外国人旅行者）は、平成25年には1,974万人と急増し、旅行消費額も3.4兆円と過去最高となり、その模様は新聞やマスコミ等で取り上げられ、大きな反響を呼んでいます。そうした訪日外国人旅行者の大半は、関東、中部、関西等のゴールデンルートと称される観光地や大規模百貨店等に集中しており、最近では地方都市や地方の観光地、イベント等に足を延ばす傾向が見えつつあるように聞きます。国は、2020年にインバウンド（訪日外国人旅行者）4,000万人と設定し、その目標達成を目指していますが、このような状況下で、地方自治体の観光行政の体制整備が急がれます。そこで、現状の訪日外国人旅行者誘客とルート戦略についての考え、また、近隣市町との連携を強化した展開など、本市の現状での取り組みについて伺います。

### 3. 低年金受給者支援のための「年金生活者等支援臨時福祉給付金」について

年金生活者等支援臨時福祉給付金の申請締め切りの8月8日に向け、申請手続きが進んでいると聞きます。市内の対象世帯は5,085世帯で、人数は5,963人とのことであり、5月末の給付金申請状況は、世帯で85.1%、人数で86.0%の申請率と聞いています。そこで、事業の趣旨から考えると、一人でも多くの給付金対象者に3万円が支給される取り組みが必要と思われますが、今後の給付率向上への取り組みについて伺います。

20番 森本典夫

### 1. 子どものいるUターン・Iターン家族に対し、住宅リフォームの補助率や補助上限額を抜本的に拡充することについて

人口減少傾向を緩和する観点から、子どものいる家族で、住宅をリフォームして「井原に帰って暮らしたい」「井原に移住したい」という家族を対象に、現在の住宅リフォーム補助制度を抜本的に拡充し、そんなに良い条件なら「井原に帰ろう」「井原に移住しよう」という気持ちになってもらえる補助制度にしてはどうですか。

そして、今年度から実施している「いばらぐらしお試し住宅」制度と並行して、住宅リフォーム補助制度を抜本的に拡充させた内容を全国に発信し、子育て中の家族が井原に永住したいと思ってもらえるよう工夫してはどうですか。

### 2. 井原市内の断層（芳井断層）に対する市の新たな対応と地域住民に対する新たな対応（心がけ）について

依然として余震の続く熊本地震。多くの犠牲者・被災者がおられる中で、一日も早い復旧が求められるところです。

先般、新聞で岡山県内の断層について報道されました。それによりますと、井原市内には「芳井断層」があります。この断層に関わる大きな地震がいつ起こるか想定できない中ですが、新聞には最大震度6強の場合の被害状況も想定されており、長者ヶ原一芳井断層で、死者40人、最大避難者21,672人という想定数を見て私自身びっくりしました。

万が一、井原地方に大きな地震が起きたときの自治体の対応と地域住民の対応（心がけ）として、これまで「井原市地域防災計画」に示されている対応に加え、新たに対応を考える必要があるとお考えなのか、これまでの対応でいいとお考えなのかお尋ねいたします。

### 3. 認知症初期集中支援チームの設置について

国が昨年策定した認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）によると、すべての市町村で「認知症初期集中支援チーム」を設置し、2018（平成30）年度から支援を実施することと定めています。

5月2日の新聞によれば、井原市は今年度中の設置予定と報道されています。そして、支援チームには原則として国の研修を受けて「認知症サポート医」に認定された専門医がいることが条件になっており、支援チームの設置が進まない最大の原因と報道されています。

井原市は支援チーム設置について、現在、どの程度具体化されているのでしょうか。

### 4. 井原市での子どもの貧困の実態と支援策等の充実・改善について

近年、家族と地域のつながりが希薄となり、核家族やひとり親家庭などが増えている中で、子育てにかかる親の負担は重くなっています。周りに頼る人がおらず、SOSが言えない家庭も少なくなく、子どもに十分な愛情や教育を注ぐことができずに苦しんでいる親がたくさんいると言われてしています。

全国的には、今や6人に1人の子どもが貧困状態にあり、ひとり親世帯では5割を超えており、更に深刻なことに育児放棄も含む児童虐待の対応数は、年間7万件に及んでいると言われてしています。

井原市では、子どもの貧困をどう定義づけ、その実態はどうか、また、貧困家庭に対する支援はどうされていますか。今後、支援策等をどう充実・改善しようと考えていますか。

### 5. 市内の観光地にある公衆トイレの管理について

市内の観光地には市内外から多くの観光客が訪れます。市内の観光地には、当然ながら公衆トイレが設置されており、多かれ少なかれ、これらのトイレを利用

されます。その時トイレが汚れていたり、ゴミが散らかっていたりということがあると不愉快な気持ちになるものです。井原市を訪れる観光客に不愉快な気持ちを抱かせたり、井原市のイメージダウンにつながるようなことがあってはいけません。

そこで、これらのトイレの清掃を含め環境整備に万全を期していますか。また、市として、これらのトイレについて定期的に見回りを行っていますか。

1 番 西 村 慎次郎

## 1. 「デニムの聖地」元氣いばら魅力活力創出事業について

### 1) 本事業の取り組み経緯と期待する効果について

①「地方創生加速化交付金」の概要と経緯について、デニム事業で申請した理由を含めて伺う。

②本事業による事業効果をどう見込んでいるのか伺う。

### 2) 本事業の内容について

①本事業の事業概要について伺う。

②本事業実施に伴う関係団体との連携について伺う。

### 3) 広域連携と今後の方向性について

①広域でのデニム展開について伺う。

②井原デニムによる今後の事業展開について伺う。

## 2. 「でんちゅうくん」の活用について

### 1) この1年間の活動状況について

①イベント等への派遣状況について伺う。

②「でんちゅうくん号」の運行状況について伺う。

③グッズの販売状況について伺う。

④ラインスタンプの販売状況について伺う。

⑤SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の運用状況について伺う。

2) 今後の活動について

①ゆるキャラグランプリ2016へのエントリーについて伺う。

②新たな取り組みを含めた今後の活用について伺う。